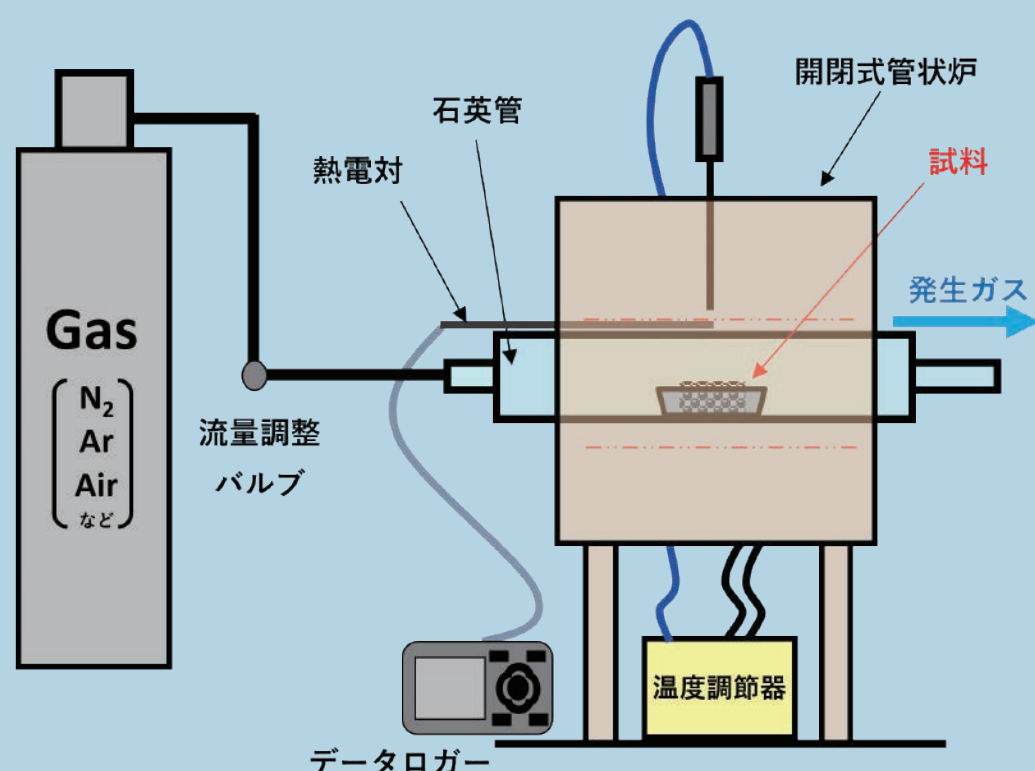
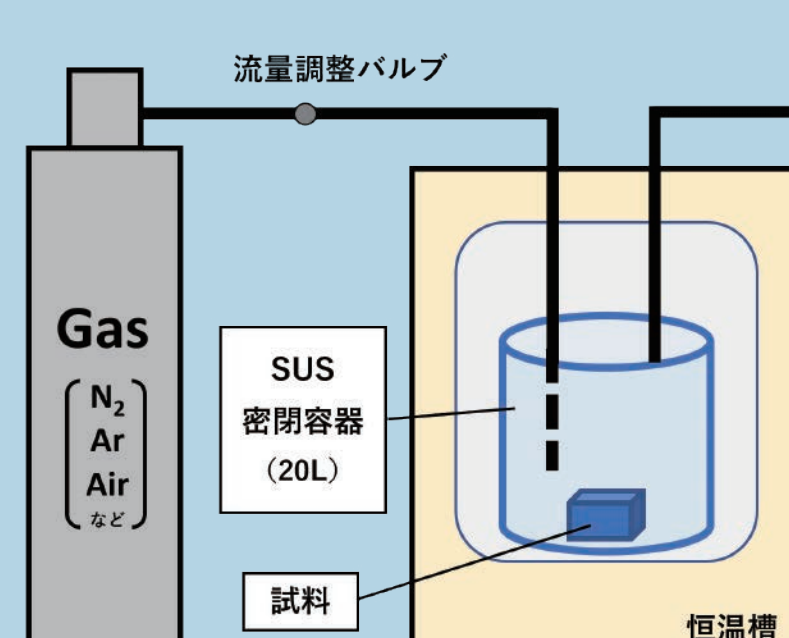
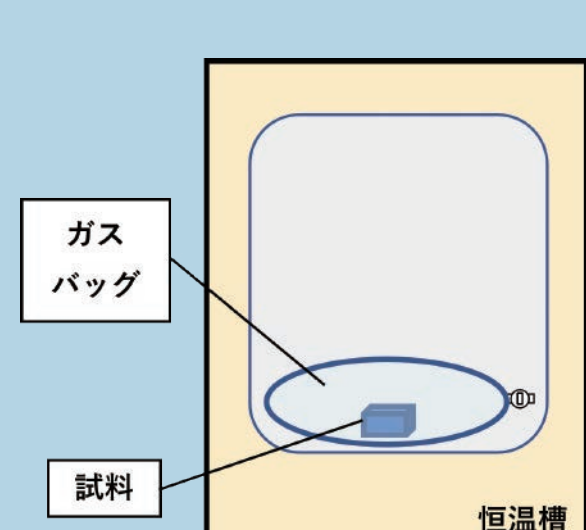


部材からの発生ガス分析による 製品トラブル原因究明

トラブルの原因究明に！発生ガス分析

自動車はエンジンをはじめ、シートやタイヤ、ハンドル、ガラス、ヘッドランプ、各種電子機器など数万点の部品で構成されていますが、「腐食」「異臭」「変色」といった製品トラブルの原因究明として部材からの発生ガス分析は有効です。これまでの多くの実績から品質管理や製品開発をサポート致します。

加熱方法	管状炉加熱法	容器加熱法	バッグ加熱法			
概略図						
試料サイズ	小	大	大			
加熱温度	～≦950℃	40～200℃	40～60℃			
事例	熱分解時の有害ガス調査 (樹脂、グリス、ゴムなど)	製品から発生する 残留溶媒調査 (電子基板、電磁弁、建材など)	製品から発生する 揮発性有機化合物調査 (電子機器、フィルタ、建材など)			
捕集方法	バッグ捕集、活性炭捕集、TENAX管捕集、液体捕集など目的に応じて選択					
		バッグ捕集	活性炭捕集	TENAX管捕集	液体捕集	トラップ捕集
	対象	H ₂ 、CO、CO ₂ 、 低級炭化水素、 揮発性溶剤等の ガス状成分	各種有機溶剤成分 mgオーダーまでの 分析に有効	各種有機溶剤成分 ngオーダーまでの 分析に有効	HClなどの 水溶性のガス	ミスト状の 高沸点成分

測定

GC、IC、GC/MS、HPLCなど

分析事例

- シリコンコーキングを加熱した際の低分子シロキサン発生量分析
- 粘着テープを加熱した際の有機溶剤成分の定性分析
- 塩化ビニルポリマーを加熱燃焼させた際のハロゲン元素分析